

## 避難誘導訓練

災害が発生したときに、避難場所や避難経路が周知されていれば、地域住民は素早く安全に避難することができます。

逃げ遅れる人が発生しないよう、避難誘導訓練を実施します。

### 訓練内容

- ① 各地区で、避難場所を決めておきます。
- ② 住民は自宅の火災発生防止の処置を行うとともに、安全で動きやすい服装で避難場所に集合します。
- ③ 避難場所で様式1を参考に人員を点呼して安否確認を行います。

氏名		報告日時		報告名	
		月	日		
地図を貼り付けておく					
全壊 × 半壊 △ 一部損壊 ○ 無事 ◎					
階層	氏名	避難経路	災害確認	災害	確認事項
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
その他					

出来たら、この様式は災害が起きる前に作っておきましょう。

- ④ 避難途中では、事故防止に留意します。倒壊の危険のあるブロック塀などは避けて、高齢者や子どもなどの要配慮者を列の中心にして、逃げ遅れる人が出ないように注意します。
- ⑤ 避難所に到着したら、点呼をとって全員の無事を確認して、自主防災組織の災害対策本部に避難の完了を報告します。

#### ★避難訓練のポイント

- ・ 事前に地域の避難場所や経路、危険箇所を調べて把握しておきましょう。
- ・ 早めの避難を促しましょう。
- ・ 一人で避難することが困難な人の、手助けの方法を習得しておきましょう。
- ・ 避難の際に、できれば「ガスの元栓をしめる」「ブレーカーを落とす」といった、火災発生防止措置を行うよう各世帯に呼びかけましょう。
- ・ 徒歩で避難しましょう。

#### 【準備用品（例）】

メガホン、誘導旗、ロープ、車椅子、誘導棒、人数集計票、筆記具など